

実証成果-5 カラーピーマン労働時間の把握

1 目的

カラーピーマンは、これまでくみあい食品の農場や経済連トレーニングセンターで栽培され、平成22年度、トレセン1期生3戸が本格的なカラーピーマン栽培農家として就農した。就農にあたっては、これまでのデータを参考に営農計画等を作成したが、労働時間等不明確な点もあり、実際の農家経営での問題点、課題等が不明確である。

そこで、カラーピーマン栽培での労働時間を把握し、経営指標作成の基礎データ、今後の経営規模決定時の基礎資料とする。

2 方法

(1)内容 カラーピーマン労働時間の把握

(2)設置場所 肝付町新富

(3)委託農家 肝付町 T氏（経営面積：2,100㎡）

(4)耕種概要

ア 対象作物：カラーピーマン

イ 品種：キャンピー5号、新キャンピー

ウ 播種・定植：播種 8月上旬、定植 9月中旬

(5)調査方法：記帳による日ごと作業項目ごと労働時間の把握

(6)調査項目：育苗：播種、鉢上げ、苗管理など

定植準備・定植：ハウス準備、施肥・畦立て、定植など

収穫・管理：追肥・かん水、整枝・誘引、防除、収穫、玉拭き・選別など

○作型と主な作業



3 結果及び考察

(1)就農にあたって、ピーマンの労働時間やトレセン研修時の労働時間を参考に、目標労働時間を1,525時間と設定した。

(2)10aあたり労働時間は、単収8,600kgの実績で1,546時間であった。これは、目標労働時間とほぼ同じであった。

(3)作業項目ごとには、目標と比較して鉢上げ、ハウス準備、定植、整枝・誘引、病虫害防除の労働時間が多かった。就農1年目で、ハウス準備や定植は作業に不慣れであったこと、整枝・誘引は樹勢を強く管理したため、伸びが良く、整枝・誘引の頻度も多くなり時間が多かったと思われる。

(4)作業時間が短かったのは苗管理、支柱立て、収穫、玉拭き・選別などであった。

(5)この実績を参考に労働時間の指標を作成し、規模拡大と雇用のシミュレーションを行い、新規就農者へ提示した。

(6)例えば、夫婦2人+雇用の経営では、経営面積が2,900㎡以上になると雇用労賃や償却費の増加により所得の増加程度が小さくなり、それ以下の面積が適すると思われる。

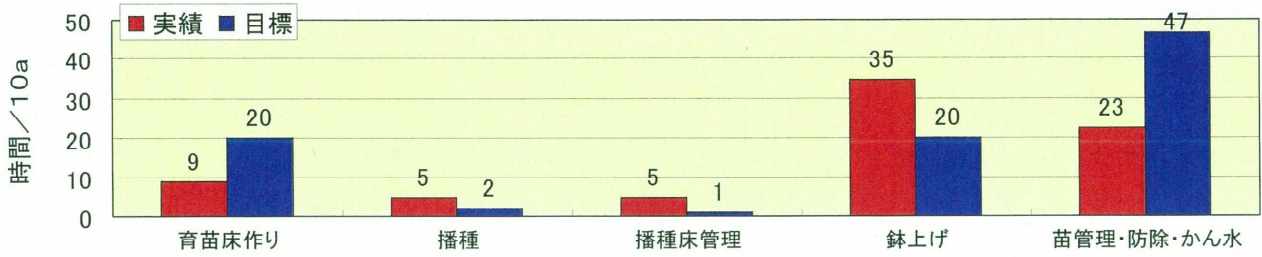


図1 育苗の労働時間 (時間/10a)

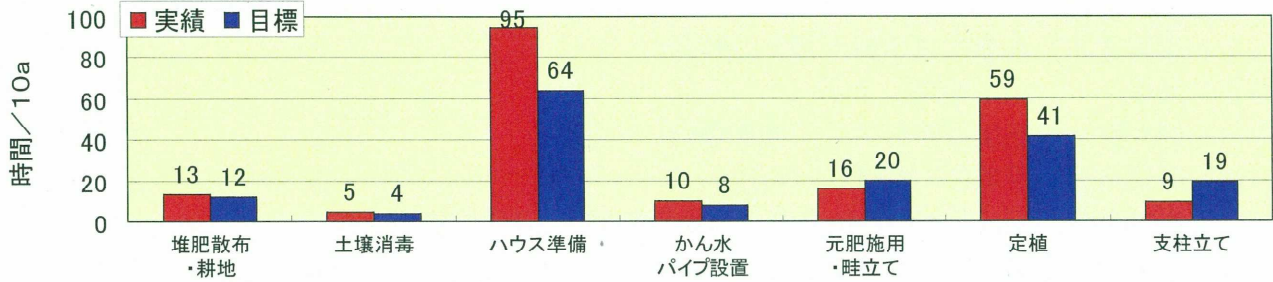


図2 定植準備・定植の労働時間 (時間/10a)

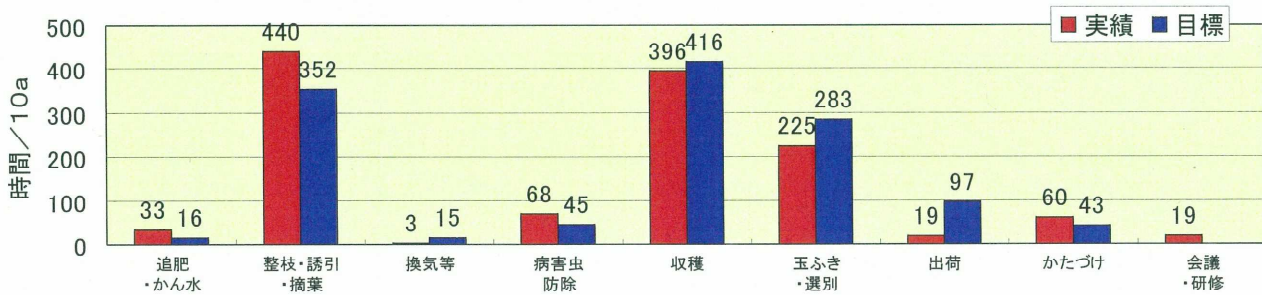


図3 収穫・管理の労働時間 (時間/10a)

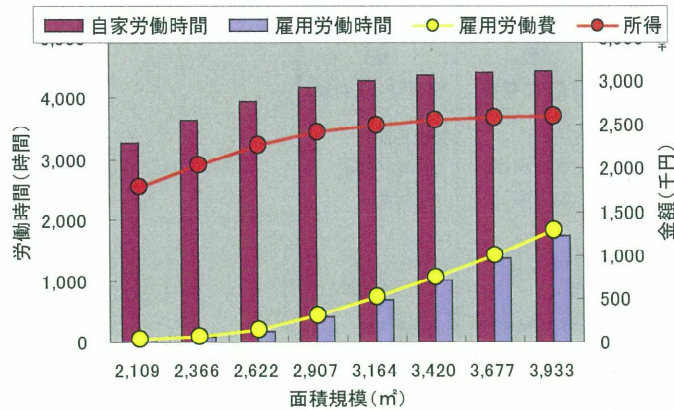


図4 規模拡大シミュレーションの一例

4 今後の課題

労働時間の継続調査による指標改善

5 活用上の留意点

就農1年目の労働時間実績であり、作業の熟練や単収の増減により変動する可能性があるので注意する。

6 取りまとめ者

柏木 伸哉